

長崎北病院 伝言板 12月号

令和5年12月1日発行

12月。師走。自由な年末・クリスマスは久しぶり。街には人が溢れ、笑いさざめく。この時期になると山下達郎の「クリスマス・イブ」が耳に蘇る。『雨は夜更け過ぎに雪へと変わるだろう Silent night, Holy night きっと君は来ない ひとりきりのクリスマス・イブ♪』。でも、JR東海のCMの影響だろうか。きっと誰かが駆けつけて来る気がする。やはりGood endingが良い。

ゆるブラック



「ゆるブラック」という聞き慣れない言葉に遭遇しました。従来の「ブラック企業」とは長時間労働、過剰なノルマ、残業代・給与の不払、ハラスメントが横行などコンプライアンス意識が低く、離職が多い危ない職場と認識しています。それでは「ゆるブラック」とは何？ 「ブラック企業」の対極は「ホワイト企業」です。残業が少ない、福利厚生は充実、さまざまなハラスメントがなく、研修制度は充実、離職率が低いなどです。誰でも憧れます。実は「ゆるブラック企業」はこの「ホワイト企業」によく似ているのです。その見かけの特徴は、長時間労働やパワハラがない、仕事がキツくない、定時に帰れるなど職場内の居心地が良いという部分です。良い事です。これが何でブラック？ それは①スキルアップが難しい ②将来性を感じない ③給料が上がらない ④離職が多いという見えない特徴があるからです。「ホワイト企業」と「ゆるブラック企業」は紙一重なのです。時代は変わり、最近是人手不足。働き方改革。残業は少なくなりハラスメントにも厳しく、

コンプライアンス重視になっています。多くの企業で 以前のよう労働環境は少なくなり、ホワイトに移行しようとしています。当院含めた法人でも各種制度整備がされてきました。これからも良い方向に変わっていくと思います。しかし、組織やそこで働く人が、成長しよう、スキルアップしたい、新しいことに挑戦したいという意欲がなければ組織や個人の将来性はない。今のままでいい、楽がいい、ぬるま湯が快適という組織は、居心地が良くてもすぐに凋落する。「ホワイト企業」を目指したつもりが油断するとあっという間に「ゆるブラック企業」に変わっていきます。一見よく見えるが気付かないうちに静かに変貌していく、内側から朽ちていく。「ゆるブラック」は「ブラック」より危険。調べてみると「ゆるブラック」は恐ろしい言葉でした。



話変わって、最近医療関係で腹立つこと。いろんな薬が無くなっています。「咳止めがありません」「漢方薬が品切れ」「抗生物質、別のにしてください」などが頻回。医療費節減のために「ジェネリック医薬品」を使いなさいという国の方針は仕方がない。しかしジェネリック医薬品メーカーは弱小でトラブルが続出し欠品します。会社の責任だけでは無い。誘導している国、厚労省の責任は重大。薬が無いは一大事。責任を持つべきでしょう。もう一つ。最近、いろいろな病院に入院していた人達から、食事がまずかった、貧相。食べられなくて痩せたという話が続きました。当たり前です。病院の食費は20年前と同じ。昨今は何でも値上げ。20年前と同じ費用で3食をとっても。ほとんどの病院は食事は外部委託です。先日、学校や病院に食事を提供していた「ホーユー」という会社が倒産し大混乱したことは記憶に残る新しいと思います。倒産しなくても食事の質が落ちるのは当たり前。病院の食事がいきなり止まる日が来るかもしれません。（当院は自前で食事を作っている希少な病院です。赤字でやりくり大変ですがおいしいと思います。自慢、宣伝です）(A.S.)

